

旭公民館だより

発行 令和8年9月
旭公民館
館長 伊吹公雄
電話 45-5903
FAX 45-5903

“旭寄席” ゆかりの 恭瓶さんを繁昌亭で応援

噺家四十周年を祝う繁昌亭の一日



8月19日(水)、旭寄席でおなじみの笑福亭恭瓶さんを応援しようと、旭寄席実行委員会のメンバーを中心に9名が大阪・天満天神繁昌亭を訪れました。

この日は「噺家芸歴四十周年記念ウィーク」の特別公演で、恭瓶さんが八名の落語家のトリを務める日。以前から計画していた激励訪問が、この日に実現しました。

恭瓶さんが披露した演目は、師匠・笑福亭鶴瓶さんの師匠である六代目笑福亭松鶴を題材とした噺。

松鶴の厳しさの中にある深い愛情、弟子たちへの思い、芸に向き合う姿勢などが、恭瓶さんの語り口によって生き生きと浮かび上がりました。時折ユーモアを交えながら語られる松鶴のエピソードに、会場からは温かい笑いがこぼれ、「なるほど、こういう師弟関係があったのか」と思わずうなずいてしまう場面も。

恭瓶さんの表情や間の取り方から、松鶴への深い敬意が伝わり、観客は噺の世界に引き込まれていきました。

落語会のあとは、恭瓶さんを囲んでの会食が行われました。和やかな雰囲気の中、旭寄席にご尽力いただいた故・佐藤茂夫さんの話題になると、場の空気が少しあたたかく引き締まりました。

恭瓶さんは「佐藤茂夫さんがいたおかげで旭寄席を続けてやってこれた。これからも頑張っていきたい」と語られ、一同深くうなづきながらその言葉を受け止めました。佐藤さんの思いが今も旭寄席を支えていることを、改めて感じる時間となりました。

なお、第16回旭寄席は12月13日(日)に開催予定です。地域みなさんに楽しんでいただけるよう、実行委員会一同、準備を進めてまいります。



天満天神繁昌亭は、上方落語を気軽に楽しめる日本唯一の上方落語専門寄席です。

大阪・天満宮のすぐそばにあり、毎日、実力派の噺家たちが高座に上がり、古典から新作まで幅広い演目で笑いを届けています。

観光の合間にも立ち寄りやすく、初心者でも楽しめる温かい雰囲気が魅力です。

歴史講座

“中須と旭と府中”

講師 竹岡 健次 さん



地域の歴史に耳を傾ける参加者と、熱く語る竹岡さん

9月5日（土）、旭公民館主催の歴史講座を開催し、16名のみなさんにご参加いただきました。

講師は、府中市の歴史研究を続け市内各地の公民館などで講演活動を行っている竹岡健司さんです。今回の講座は記念すべき30回目の講演となりました。

演題は「中須と旭と府中」。私たちが普段何気なく使っている地名や地域の行事を切り口に、身近な歴史の奥深さを学ぶことができる内容でした。

まず話題となったのは、「中須」という地名の由来です。

現在、芦田川は中須町の南側を流れていますが、かつては複数の分流があり、砂川もその名残りの一つとされています。現在は治水のため流れが整備されていますが、昔の地形をたどると中須町の大部分は文字どおり芦田川の「中州」であったことが分かります。このことが「中須」という地名の由来になったと考えられているそうです。

また、現在では「中須」という表記に統一されていますが、明治時代以降にこの表記へ固定されるまでは、古文書などにさまざまな表記が見られることも紹介されました。地名一つをとっても、長い歴史の中で少しずつ変化してきたことがうかがえます。

続いて、府中市内で唯一、中須地区が祇園祭に参加している理由についての考察が紹介されました。戸手の素戔鳴神社（旧天王社）の大祭である祇園祭には、戸手・相方・新市・中須の4地区が参加しています。しかし、かつての郡の区分でみると戸手・新市は品治郡、中須・相方は芦田郡に属しており、異なる郡の地域が同じ祭りに参加していることとなります。一般的に祭りは村や郡などのまとまりで行われることが多いため、その理由について竹岡さんは歴史的な背景から考察されました。709年（和銅2年）には郡の再編が行われ、芦田郡と品治郡の境界が変更されています。その際、中須や相方が移管地域に含まれていた可能性があり、現在の行政区分とは異なる昔のつながりが祇園祭に受け継がれているのではないか、という興味深い推測が示されました。

さらに、中須と新市の境界線が比較的機械的に見えることについても、当時の郡の分割に由来しているのかもしれないとの説明がありました。参加者の皆さんも「なるほど」「そういうことだったのか」と大きくうなずきながら耳を傾けていました。

講座終了後も数名の参加者が残り、竹岡さんを囲んで質問を続けました。その一つひとつに丁寧に答えられ、さらに関連する話題も次々と紹介されるなど、歴史談義は尽きることがありませんでした。気が付けば終了から2時間近くが経過しており、参加者のみなさんの関心の高さと、講座の魅力がうかがえるひとときとなりました。

地域の歴史に触れ、その奥深さを再発見できた大変有意義な講座でした。今後もこうした機会を企画していきたいと思います。

